

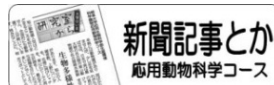
もっと知りたい! どうぶつこ〜す

応用動物科学コース

検索

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~zoology/>

応用動物科学コースのホームページでは、授業や実験実習の様子、研究成果の学会発表、教育・研究の対象動物、その他、最新情報を随時紹介しています。本誌の内容は、ホームページ上にさらに詳しく紹介していますので、あわせてご覧ください。



関連施設 (学部の附属施設)

岐阜フィールド科学教育研究センター

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~gufarm/html/index.html>

附属岐阜フィールド科学教育研究センターには、2つの牧場があります。構内の柳戸農場には、乳牛、ヤギ、ヒツジ、ウマなどが飼育されています。また、大学から離れた別の場所に、美濃加茂農場があり、肉牛肥育が行われています。これらの牧場は、動物コースの実習拠点です。毎年、夏には美濃加茂農場で宿泊体験型の「牧場実習」を行なっています。



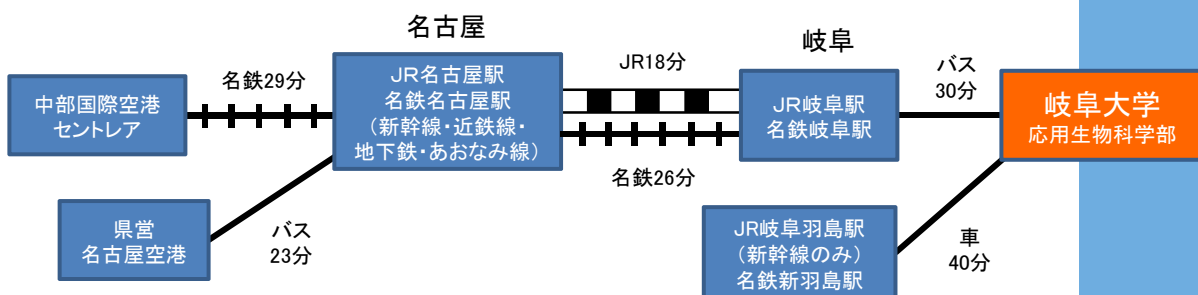
野生動物管理学研究センター

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~rcwm/>

生物多様性の保全を目標とする諸研究を推進するとともに、野生動物を含む自然環境に関わる教育と文化活動を幅広く展開しています。動物コースの教員もセンターの活動に参加し、関連する授業の一部を担当しています。大学院修士課程から、このセンターの研究室に所属することもできます。2012年には、岐阜県との連携により、新たに「寄附研究部門(鳥獣対策研究部門)」が設置されました。

アクセス便利!

意外にちかい名古屋駅!



どうぶつこ〜す
@まるゆかりガイド

国立大学法人 岐阜大学 応用生物科学部
生産環境科学課程 応用動物科学コース
〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1

発行 2012年8月8日 © 応用動物科学コース 編集 kusuda / イラスト maeno
※本誌は「どうぶつこ〜す」をよく知っていただくためのコースオリジナルの冊子です。
正式な情報は、必ず応用生物科学部の資料やホームページでご確認ください。



岐阜大学 応用生物科学部 生産環境科学課程

応用動物科学コース

1冊で @まるゆかり

どうぶつこ〜すの授業科目

どうぶつこ〜すの実習風景

どうぶつこ〜すの学外との連携

特集 淡水生物園(在来水生生物保全池)

どうぶつこ〜すの7つの研究室

どうぶつこ〜すの出版物

どうぶつこ〜すの先輩たち 就職先・進学先

どうぶつこ〜すの卒業生からのメッセージ



人と動物の未来のために.....

動物飼育のサイエンス

応用動物科学コースは **生命**・**生産**・**保全**がキーワードです。

動物の生産科学

PRODUCTION



動物の保全科学

CONSERVATION



動物の生命のサイエンスを基礎に
家畜のよりよい生産から希少動物の保全まで

LIFE SCIENCE



動物の生命科学

岐阜大学 応用生物科学部
生産環境科学課程

応用動物科学コース

動物における遺伝・発生・繁殖・栄養などの理論から生物学的現象までの科学を広く学びます。さらに自然環境と調和した持続可能な生物資源の生産、絶滅危惧動物の保全、身近な生物を育む自然環境の保全、動物福祉に配慮した管理と飼養などに関する知識と技術を習得します。

*生産環境科学課程として入学し、生産環境科学に関する幅広い基礎を学んだ後、3年生から3つのコース（応用動物科学コース、応用植物科学コース、環境生態科学コース）に分かれます。各コースへの分属希望調査は、2年生の秋ごろに実施しています。さらに、3年生の6月ごろに、どの研究室に所属するか調査が行われ、その後、各研究室で卒業研究が進められます。

卒業時に得られる資格等

- 学士（応用生物科学）
*所定の単位を修めると資格が得られます。
- 高等学校教諭一種（理科・農業）免許状
*教員免許取得のための専門的な授業（教職科目）が別途用意されています。
- 博物館学芸員資格
*動物園・水族館・自然史博物館等に関する専門的な授業（博物館科目）が別途用意されています。
- 家畜人工授精師及び家畜受精卵移植師
*所定の単位を修めると試験の一部免除や実務経験の短縮が認められます。



応用動物科学コースの教育①

どうぶつこ～すの授業科目



応用動物科学コースの教育科目群は、主に生命科学、生産科学、保全科学の3つに分けられ、それぞれの講義に対応する実験実習から構成されています。教室での講義や実験室での実験実習に加えて、応用動物科学コースでは、さらに現場体験型の実習を重視しています。特に、牧場実習・動物園学実験実習・野生生物フィールド実習の3科目はコースの基幹実習です。

動物の生命科学

- ・生物化学
- ・動物発生学
- ・動物工学
- ・動物遺伝学
- ・動物生理学
- ・動物系統進化学
- ・生物形態学
- ・動物機能形態学
- ・動物免疫学
- ・実験動物学

動物の生産科学

- ・動物育種学
- ・動物栄養学
- ・動物生産栄養学
- ・動物繁殖学
- ・動物卵科学
- ・動物管理学
- ・動物生産管理学
- ・応用動物行動学
- ・動物性食品化学
- ・生産環境関係法規

動物の保全科学

- ・動物園学
- ・動物園動物管理学
- ・生物多様性国家戦略
を読みこなす
- ・野生動物管理学入門
- ・エキゾチックアニマル論
- ・ピオトープ論

実験・実習

- ・動物発生学実験及び実験法
- ・動物分子遺伝学実験及び実験法
- ・動物生理学実験及び実験法
- ・動物栄養学実験及び実験法
- ・動物行動管理学実験実習
- ・動物機能形態学実習
- ・牧場実習
- ・動物園学実験実習
- ・野生生物フィールド実習
- ・インターンシップ実習
- ・情報処理演習/情報処理実習
- ・専門英語演習

(注) 一部、生産環境科学課程の共通科目や関連する全学共通教育科目も含まれています。一部の科目名等は、カリキュラムの更なる充実のため変更されることがあります。

3年生のAさんの時間割(平成24年度前期の場合)

	月	火	水	木	金
1限			動物栄養学	応用動物行動学	動物免疫学
2限	動物繁殖学	動物卵科学	動物育種学	動物発生学	動物遺伝学
3限	動物生理学 実験及び実験法	動物園学実験実習/ 野生生物 フィールド実習			動物分子遺伝学 実験及び実験法/ 動物発生学実験 及び実験法
4限				情報処理実習	
5限					動物園学

(注) 時間割表(科目の開講曜日や時限など)は毎年変更になります。選択科目などもあるため、人によって時間割が若干異なります。

どうぶつこ～すの実習風景

牧場実習(3年生・夏)

附属施設の牧場(柳戸農場、美濃加茂農場)で、乳牛と肉牛の子牛から成牛までの飼養管理技術や乾草作成などの飼料生産技術を習得します。動物の管理に必要な飼料設計、動物のハンドリング、草地や土壌管理などの方法についても学びます。



動物園学実験実習(3年生・前期)

動物園は、野生動物を飼育展示するだけでなく、保全センターとして絶滅危惧動物の種の保存や調査研究が行われています。また、博物館として様々な教育研究用標本の作製とその活用が図られています。この実習では、動物園における野生動物の飼育や繁殖管理に必須となっている実験手技や、貴重な標本の作製法を習得し、動物園でそれらの技術がなぜ必要か、いかに活かされているのかについて学びます。

- ①. 動物標本の作製とその意義
- ②. 動物標本の展示と展示解説、展示解説板の制作
- ③. 動物園動物の飼育管理のためのホルモン分析
- ④. 動物園動物の飼育管理法と施設見学
- ⑤. 動物園研究センターの研究例と施設見学
(よこはま動物園ズーラシア・横浜市繁殖センター)



野生生物フィールド実習(3年生・前期)

野生生物の調査研究は、野外でのフィールド調査の他、採集した生物を飼育して行う研究や専門の飼育施設と連携して行われる研究もあります。この実習では、野生生物の研究フィールドを訪問し、実物の研究対象生物やその生息環境・飼育環境を理解し、現場での動物観察法や調査研究手法、研究材料の採取法等を学ぶと共に、実際にデータを収集し解析するまでの一連の知識と技術を学びます。

- ①. 動物の行動観察法と記録法
- ②. 動物園動物の行動観察(名古屋市東山動物園)
- ③. 野生動物の行動調査(京都嵐山)
- ④. 哺乳動物の毛色表現型の観察による遺伝学的調査
- ⑤. 水棲生物の形態と行動観察(名古屋港水族館)
- ⑥. 外来水棲生物の捕獲と実態調査

(注) 実験実習の内容や実習先は、年によって変更になる場合があります。

どうぶつこ～すの学外との連携

応用動物科学コースは、応用生物科学部や各研究室と学外機関との間で、学術交流や共同研究に関する協定を結び、よりよい教育や研究の充実のために、学外の専門機関と連携を図っています。

- ・横浜市環境創造局(横浜市繁殖センター)
- ・財団法人名古屋みなと振興財団(名古屋港水族館)
- ・公益財団法人東京動物園協会 恩賜上野動物園/多摩動物公園(野生生物保全センター)
- ・加森観光株式会社 姫路セントラルパーク
- ・札幌市円山動物園
- ・姫路市(姫路市立動物園)

その他、畜産研究機関や他大学、名古屋市東山動物園などの全国の動物園等とも連携して、様々な共同研究を進めています。3年生の夏には、多くの学生がこれらの学外施設でインターンシップ実習を行っています。

名古屋港水族館との学術交流協定



応用生物科学部と名古屋港水族館は、2009年に学術交流協定を締結しました。名古屋港水族館が新体制となって、岐阜大学が最初の協定校です。野生動物の飼育・展示及び種の保存における科学技術の発展が両機関の学術的利益に寄与することを共通認識し、取り交わされました。授業での見学・実習や共同研究を行っています。



名古屋市東山動物園との共同研究



世界で1年間に約1000種の野生生物が絶滅に追いやられているといわれています。動物園は、いまや野生動物の保全センターです。岐阜大学と東山動物園は、絶滅危惧動物の保全にむけて、2000年から繁殖研究を、2008年から行動学的手法を取り入れ、また2010年からは環境エンリッチメントや動物の遺伝的多様性に関する研究を行っています。2012年からは、授業での行動観察実習も開始しています。

共同研究例①

動物の性成熟や排卵周期、発情、妊娠などの繁殖生理は、体内の性ホルモン濃度を定期的に測定すれば正確に調べることができます。動物園では、飼育動物の生理状態を知っておくことが、飼育や繁殖のために重要です。そのために、動物にも人間にも安全でストレスのない研究方法の開発が必要です。東山動物園と動物繁殖学研究室は、動物の排泄物を使って、性ホルモンを測定できないかを研究し、多くの希少種の繁殖生理を明らかにしてきました。

(動物繁殖学研究室)

共同研究例②

食肉目の動物では、甘味受容体の遺伝子の違いが、それぞれの種における甘味の認識能力と密接に関係していることが知られています。動物遺伝学研究室は、ツキノワグマの甘味受容体遺伝子に、独特の変異を発見しました。したがって、彼らは、独自の甘味認識能力を持っているかもしれません。私たちは、ツキノワグマとメガネグマに、水道水のみと氷と甘味料入りの氷とを与え、識別ができるかどうかを調べる実験を東山動物園と行っています。

(動物遺伝学研究室)



ニホンイシガメ・カスミサンショウウオ・ナゴヤダルマガエルの保全



岐阜県は豊かな自然に恵まれ、岐阜市内にもまだまだ緑豊かな自然環境が多く残されています。市内には、多くの希少な淡水生物が生息していますが、やはり環境の悪化や外来種の生息域拡大は他地域と同様に深刻な問題です。このような環境の変化に伴い、岐阜地域でも絶滅の危機に瀕している在来種は少なくありません。そこで、構内の一画に小さな人工池(約200 m²)を造成し、岐阜高校、岐阜県水族館、岐阜市役所などと協働して、岐阜の希少な在来水生生物の保全を図ると共に、飼育個体の生物学的研究や野外調査を進めています。淡水生物園は、応用動物科学コースが管理しています。実習場所のひとつです。

亀

市内でもニホンイシガメ(日本固有種)をみることは少なくなってきました。よくみるカメは外来生物のミシシippアカミミガメ(通称ミドリガメ)がほとんどです。大学構内や周辺河川で動物繁殖学研究室が行なった捕獲調査でも、イシガメは僅かで、ほとんどがアカミミガメでした。大学地区のイシガメの飼育下繁殖を進め、その復活を目指しています。また、動物遺伝学研究室では、今後ミシシippアカミミガメのDNAを分析することにより、その由来や繁殖状況を明らかにし、外来種の生息域拡大の防止に役立てていく予定です。

山椒魚

カスミサンショウウオは、岐阜県以西の本州、四国、九州北西部など西日本に広く分布する全長10センチほどの小型のサンショウウオです。分布東限にあたる岐阜県では、現在2箇所にしか生息が確認されていません。しかも、その生息環境は安心できる状況ではなく、絶滅の危機に直面しています。岐阜市の個体は、条例で厳しく保護されています。特に、県立岐阜高校や岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ、岐阜市役所自然環境課などが保全活動を展開し、その成果が実を結んできています。私達も2011年からこの活動に参加しています。

蛙

岐阜市内にも多く生息するナゴヤダルマガエルは、環境省レッドリストに絶滅危惧種として記載されています。外見にも似たトノサマガエルとは、従来、繁殖時期がずれていましたが、用水の共同管理や稲作の大規模化に伴って田んぼに水が入る時期が遅くなり、両種間の交雑が進んでいると考えられています。比較生化学研究室は、母系遺伝するミトコンドリアDNAの遺伝子解析を利用して、ナゴヤダルマガエルの交雑状況を判断する手法を開発しました。この手法で、見た目には分りにくい両種の交雑状況の調査を行っています。



淡水生物園で生まれたニホンイシガメの小亀

保護飼育していたカスミサンショウウオの幼生が上陸



**DNAから細胞 ▶▶▶ 動物の飼育から生産管理
▶▶▶ 身近な生物から国際希少種の保全へ**

動物発生細胞学



私たち多細胞動物の体は数多くの細胞から成り立っていますが、元をたどると受精卵という、たった1つの細胞に由来します。受精卵は究極の幹細胞といえます。なぜこんなことが可能なのでしょう？ 普通の細胞とどう違うのでしょうか？ そして、どのようにして個体の「いのち」が始まるのでしょうか？ **動物発生細胞学研究室**では、主に棘皮動物を材料にして、「いのちの始まり」を科学します。棘皮動物の卵は比較的透明で、生きたまま卵内を探ることができます。また、同調よく発生するため、時間を追った詳しい観察が可能であるという利点もあります。特にヒトデ類は天然の卵成熟誘起ホルモンが知られている、数少ない動物の1つです。「卵成熟」とは、減数分裂の途中で一旦停止して成長した卵母細胞が、減数分裂を完了し、精子を受入れ可能な成熟卵へと変化する過程を指します。卵成熟はいわば「いのちの始まり」を担う卵細胞を完成させるための、最後の仕上げのステップといえます。このホルモンの発見により、ヒトデ類は卵成熟、そしてその後の受精・卵割のしくみを探るのに最も適した材料の1つになっているのです。動物発生細胞学研究室では、これらの仕組みを明らかにしていくことで、動物の生殖メカニズムの理解を深め、ひいては動物の繁殖技術の発展に寄与していきたいと考えています。

教員：山本 謙也 准教授
理学博士
動物発生細胞学

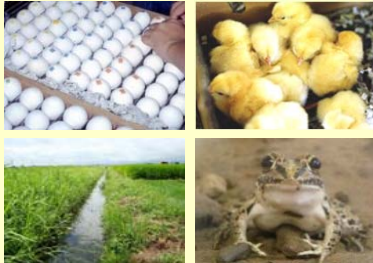


担当授業科目：動物発生学、動物系統進化学、動物卵科学、動物発生学実験及び実験法、野生生物フィールド実習 など

研究室ホームページ <http://www1.gifu-u.ac.jp/~kenya/index.html>

1

比較生化学



比較生化学研究室は「内分泌・代謝学」と古くから呼ばれてきた学問分野を研究しています。この地方に養鶏産業が盛んなことを背景にして、ニワトリやその卵を主な研究対象にしていますが、ニワトリの産業動物的な側面にだけ焦点を当てたり、ニワトリをモデル動物として細胞内で起こる現象のメカニズムだけを明らかにするのではなく、内分泌・代謝の研究を通じて、鳥類という動物がその歴史の中でどのような「生きるための知恵」を生み出してきたのかを知ることが目標にしています。研究の手法は生化学的・分子生物学的方法が中心です。また、近年における身近な自然と生物多様性の減少を背景に、私たちの関心は、従来の古典的農学（たとえば、家禽・家畜を対象とした基礎的・応用的な科学）から「自然環境と調和した、持続可能な生物資源の生産」「絶滅が危惧される動植物の保護管理や救護」「身近な生き物を育む自然環境の保全」などへと大きく変化しています。比較生化学研究室は、これらの課題についても取り組んでいます。

教員：岩澤 淳 教授
博士（医学）
比較生化学



担当授業科目：生物化学、動物卵科学、ピオトープ論、動物生理学実験及び実験法、野生生物フィールド実習 など

研究室ホームページ <http://www1.gifu-u.ac.jp/~aiwa/cebhaus.htm>

2

動物ゲノム多様性学



生態系などにおいて、生物多様性が重要であることは広く認識されています。このことは、農業生産分野においても例外ではありません。経済性が高く、現在の市場における需要に合致した少数の家畜や家禽の品種が大規模に飼育されるという傾向があり、このような品種の画一化が進む一方で、需要にそぐわない品種や経済的価値が低いとされる在来品種が見捨てられ、品種や系統の数の減少が世界的な規模で進んでいます。限られた少数の品種による遺伝的単一性は、将来の環境変化や疾病の流行等の際に深刻な影響を引き起こすことも考えられます。したがって、将来における育種素材として、多種多様な品種・系統を保存することが国際的にも重要視されています。このような現状から、**動物ゲノム多様性学研究室**では、動物遺伝資源の保存を行う際の基礎的な情報を得ることを目的として、我が国で保有されている家畜・家禽の品種や系統の遺伝的多様性と品種や系統間の遺伝的類縁関係をDNA多型マーカーを用いて、明らかにしています。現在は、家禽のニワトリを主な研究対象としています。また、飼育下にある希少動物の保護増殖に貢献することを目的とした遺伝学的解析も併せて実施しています。

教員：只野 亮 助教
博士（農学）
動物ゲノム多様性学

担当授業科目：動物分子遺伝学実験及び実験法 など

研究室ホームページ <http://www1.gifu-u.ac.jp/~tadano/>



3

動物生産栄養学



動物生産栄養学研究室は、ニワトリ、ウシ、ヤギ、ヒツジ、ブタといった家禽・家畜と呼ばれる動物を研究対象としています。研究の大きな目標は、家禽・家畜の消化、吸収、代謝と管理・飼養方法との関係を解明し、効率的な家禽・家畜生産技術を開発することにより、人間の食料生産に貢献することです。しかし、単に食料生産として効率よく家禽・家畜を飼育するだけではなく、「動物の福祉に配慮した」管理技術や飼養技術の研究を行い、その開発を目指しています。また、「自然環境と調和した持続可能な生産」を目標に、耕作放棄地や再造林放棄地などに草食家畜を放牧することにより、家畜生産と里山の保全との融和を図る研究と技術の開発にも取り組んでいます。動物生産栄養学研究室は、動物を「個体」として捉えることを重要と考えています。研究の過程では、生化学的あるいは生理学的な分析をしますが、それらが最終的に個体あるいはその飼育環境にどのような影響を及ぼしているかを意識して研究を行っています。また、人類と積極的に関わりを持ってきた家禽・家畜の特徴を生かし、動物と密接に関わった教育と研究を行っています。

教員：八代田 真人 准教授
博士（農学）
動物栄養生態学

担当授業科目：動物栄養学、動物生産栄養学、動物生産管理学、動物栄養学実験及び実験法、牧場実習 など

研究室ホームページ <http://www1.gifu-u.ac.jp/~animal/>



4

動物管理学



アニマルウェルフェア（動物福祉）は、人間が管理する全ての動物（家畜、ペット、実験動物、野生動物）に関心を持たれ、年々高まっています。アニマルウェルフェアでは、動物の肉体的・精神的健康状態が重要な判断材料となり、それを科学的・客観的に評価することが求められます。**動物管理学研究室**では、その評価について研究を行うとともに、それをもとにした動物の管理方法の改良も研究のテーマとしています。また、動物行動学を基礎学問とし、動く生物である動物が「行動する」ことの重要性について、動物の精神的健康性（快適・ストレス）との関係を調査し、飼育環境の改善（飼育環境エンリッチメント）へ繋げる研究も行っています。一方、アニマルウェルフェアにおける他の側面、例えば、動物の栄養状態、環境適応、病気、ヒトや同種個体の存在なども重要です。これらについては、栄養学、生理学、免疫学、獣医学など他分野と連携し、研究を進めていきます。また、その中で動物の個体差（遺伝的な）に着目することも動物の管理のポイントとなります。これらの研究活動を通じて、動物の飼養目的（家畜の利用・生産、野生動物の保全・管理など）の充足・発展に寄与します。

教員：二宮 茂 准教授
博士（農学）
動物福祉行動学

担当授業科目：動物管理学、応用動物行動学、動物行動管理学実験実習、牧場実習、野生生物フィールド実習 など

研究室ホームページ <http://www1.gifu-u.ac.jp/~awb/>



5

???学

新たな研究室を開設予定です（時期未定）。
詳細が決まり次第、応用動物科学コースのホームページでお知らせします。

動物遺伝学



ゲノムとは、「ある生物を構成する遺伝情報全体」を意味します。ゲノムの本体であるDNAの配列を比較すると、同じ種に属する個体間でも少しずつ違いがあります。種が異なれば、違いはさらに大きくなります。動物遺伝学研究室は、個体間のゲノムの違いを調べることで、動物遺伝資源の生産や絶滅危惧動物の保全に貢献することを目指しています。主な研究対象を、鳥類ではキジ目（家禽種）、タカ目・フクロウ目（猛禽類）、哺乳類では食肉目（ネコ科、イヌ科）、奇蹄目（ウマ科）、霊長目（サル類）などに置いています。これらの動物の遺伝的多様性に関する研究は、家畜の起源の解明とその育種改良に役立つと同時に、絶滅が危惧される野生動物の保全や動物園等での希少種の繁殖にも応用できます。私たちはまた、外見や行動などの違いが、どのような遺伝的な違いに由来するのかについて研究しています。特に、毛色に関連する遺伝子や、味覚や嗅覚に関連する遺伝子に着目しています。例えば、ある苦味を知覚できるかどうかは、たった一ヶ所のDNAの違いによって決まることがあります。個体間や種間における味覚や嗅覚の違いを、DNA配列の違いとして理解することで、家畜や伴侶動物の採食行動の理解とその改善、選抜・育種などに役立てることができると考えています。

教員：松村 秀一 准教授
博士（理学）
動物分子遺伝学

担当授業科目：動物遺伝学, 動物育種学, 生物統計学, 動物分子遺伝学実験及び実験法, 野生生物フィールド実習 など

研究室ホームページ

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~genetics/>



動物繁殖学



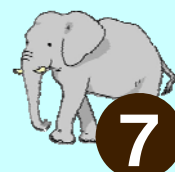
動物繁殖学研究室では、動物園や水族館などと共同で絶滅の危機に瀕した陸生・海生哺乳類を主な対象として、それらの生殖現象について内分泌学的・生理学的に追究しています。特に、糞や尿などの排泄物中の性ホルモン代謝物の定量と定性技術の開発を最も重要な課題として取り組んでいます。この方法は動物に負担を与えることなく、また採材者が危険に曝されることなく、その個体の繁殖生理状態やストレス状態を非侵襲的に評価することができるため、動物園動物や野生動物の研究をする場合に非常に有効な手段となります。動物繁殖学研究室は、国内では初めてこの分野に本格的に挑戦し、様々な希少動物の繁殖生理を明らかにしてきました。一方、内分泌学的な変化を捉えることと並行して、行動や生殖器などの変化を観察することで、発情などを容易に判定できる外見的指標の検索にも努めています。このほかに、水族館等で飼育されている希少カメ類やヘビ類、野生のニホンイシガメや外来生物ミシシippアカミミガメを対象に、繁殖生態や産卵生理に関する研究も行なっています。多くの動物園や水族館と連携して、飼育下で繁殖が困難な希少種や、絶滅の危機に瀕した野生動物の繁殖生理を解明し、その種の繁殖計画や種の保全に少しでも貢献したいと考えています。

教員：土井 守 教授
農学博士 動物繁殖生理学

担当授業科目：動物繁殖学, 動物生理学, 動物卵科学,
エキソチックアニマル論, 動物生理学実験及び実験法 など

教員：楠田 哲士 助教
博士（農学）動物保全繁殖学

担当授業科目：動物園学, 動物園動物管理学,
動物園学実験実習, 野生生物フィールド実習 など



研究室ホームページ

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~doi/>

月刊どうぶつ繁殖日誌

<http://www.doubutsu-no-kuni.net/?cat=52>

どうぶつのくに公式サイトでコラム連載中！

どうぶつこ～すの出版物

教員や学生が制作に関わった最近の出版物です。

- 馬の飼養管理指針『馬にもアニマルウェルフェア！』（日本馬事協会）
- 動物園学の教科書・訳『動物園学』（文永堂出版）
- 放牧に関する用語集『放牧地と放牧動物に関する国際用語』（John Wiley & Sons）
- 応用動物行動学の教科書『動物行動図説』（朝倉書店）
- 東山動物園公認ガイドブック『ず～っといっしょ』（中日新聞社）
- ヨーロッパの動物園のキリン飼育指針・訳『キリンEAZA飼育管理ガイドライン』（日本動物園水族館協会）

どうぶつこ～すの先輩たち

就職先・進学先（大学院修了生を含む）

分野	就職先・進学先（過去10年間）
畜産・食品関連	伊藤ハム、キューピー、ヤマナカ、森永乳業、大東乳業、名古屋製酪、イセファーム、ゲン・コーポレーション、後藤卵卵場、大山どり、クレフォートグループ、阪神畜産、フリーデン、ウオフク、日本食品分析センター、日本製粉、丸信製粉、東洋発酵、ライフフーズ、フジパン、敷島製パン、ロピア、浜乙女、エスピー食品、コーミ、サンエイ糖化、山田養蜂場、新海牧場、全国酪農業協同組合連合会、日本食肉格付協会、ロマンチックデーリィファーム、林牧場、愛知県経済農業協同組合連合会（JAあいち経済連）、日本食研、伊那食品工業、みなみ信州農業協同組合、富山市農協、JA滋賀中央会、JAあいち経済連 など
飼料製造	日本農産工業、日本配合飼料、協同飼料、日本ペットフード、エヌピーエフジャパン、スマック、三昌物産、豊橋飼料 など
製薬・動物薬・医療・研究など	三共ライフテック、大日本製薬、第一製薬、共立製薬、バイエル薬品、アステラス製薬、ゼネカ薬品、アスコ、富山化学工業、グラクソ・スミスクライン、岐阜県公衆衛生検査センター、日本遺伝子研究所、大正製薬、大塚製薬工場、大洋薬品、東和薬品、岐阜県生物産業技術研究所、バイオロジカ、加藤生物科学研究所、中北薬品、武田薬品工業、食品農医薬品安全性評価センター、新日本科学臨床薬理研究所、医学生物学研究所 など
動物飼育展示施設（動物園、水族館、観光牧場など）	東京動物園協会（多摩動物公園）、静岡市役所・畜産（静岡市立日本平動物園、3名）、小諸市動物園、京急油壺マリパーク、アワーズ（アドベンチャーワールド）、日和山観光（城崎マリワールド）、アイピーシー（IPCわんわん動物園）、鷹山ファミリー牧場、伊賀の里モクモク手づくりファーム、乗馬クラブクレイン、なかよし生き物倶楽部プチZOO など
その他動物関連	アニコムインターナショナル、動物病院 など
国家公務員・地方公務員	農林水産省、岐阜県庁、愛知県庁（畜産技術職）、長野県庁、大分県庁、和歌山県庁、美濃加茂市役所、小牧市役所、法務省、愛知県警察 など
教育職（高校農業・理科など）	岐阜県教育委員会、愛知県教育委員会、野田塾、志門塾、東進、アイピーシー（IPC国際ペットカルチャー総合学院）など
大学院ほか進学	岐阜大学大学院（農学研究科・応用生物科学研究科・連合農学研究科・医学研究科・獣医学研究科・教育学研究科）、名古屋大学大学院（生命農学研究科・医学系研究科）、京都大学大学院（理学研究科・霊長類研究所）、東京農工大学大学院（農学研究科）、筑波大学大学院（生命環境科学研究科）、総合研究大学院大学、日本医療福祉専門学校、Toronto School of Professional Pet Grooming など

どうぶつこ～すの卒業生からのメッセージ

豊橋飼料株式会社（動物生産栄養学研究室 卒業）

大学で畜産を学び、興味を持ったことから、就職も畜産と研究していた栄養学に関わる飼料業界を選びました。現在は、関連農場の財務、経理管理を担当していますが、仕事をする上でも鶏、豚、牛の出荷までの成育過程や畜産管理システムを理解している必要があるため、大学で学んだ動物管理学や動物栄養学などは今でも役に立っています。当面の目標は先輩社員の手を離れ、自分で仕事ができるようになることです。



静岡市・畜産/日本平動物園 配属（動物繁殖学研究室 卒業）

私は今、静岡市の日本平動物園で飼育員として働いています。基本の業務は毎日の動物の世話ですが、他にも、飼育動物のことを説明するガイドや掲示物の作成、展示室内の植物の世話やレイアウト、エンリッチメントと呼ばれる飼育環境をよくする工夫、学校や公民館での出張授業など各人の創意工夫に任された自由度の高い仕事がたくさんあり、どれも楽しみつつ悩みつつ行なっています。業務を通じて飼育動物の面白さを発見したり、来園者の方に興味を持ってもらえるような説明ができた時はとてもやりがいを感じます。今後さらに飼育の工夫と情報発信の充実を図っていき、頑張っていきます。

私の場合は動物園に入るために、畜産系の授業単位を習得している必要がありました。その上、動物コースの授業で習った内容が試験範囲に含まれていたため、3年次からのコース選択が今の仕事につながりました。1～2年生の時は動物のことだけでなく、それらを取り巻く環境を学べる授業をいろいろ受講することができ、そこで学んだことは職業選択や仕事に大いに役立っています。興味があることを広く学べるのも生産環境科学課程の魅力のひとつです。



応用動物科学コースの卒業後の進路